

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

第149号 会 報 1995年 6月30日

目 次

第98回総会並びに講演会開催のお知らせ	1	長谷川 永田賞金メダルのデザインについて	6
講演申し込み用紙	3	本学会創立当初の思い出	7
予稿フォーマット	4	田中館賞受賞者より	8
第182回運営委員会報告	5	お知らせ	9
創立50周年記念事業について	6	研究助成金案内	10
大林奨励賞推薦作業委員会について	6	人事公募	10
山田科学振興財団研究援助候補の推薦について	6	SGEPSS Calendar	11
合同大会共通セッション・シンポジウム提案の受け付け	6	第98回総会並びに講演会プログラム(案)	12

第98回総会並びに講演会開催のお知らせ

第98回総会並びに講演会は、京都大学の工学部および超高層電波研究センターのお世話により下記の通りに行われます。

期間：1995年10月4日(水)～7日(土)

会場：京都市北文化会館

〒603 京都市北区小山上総町49番地の2
<キタオオジタウン内>

TEL: 075-493-0567 FAX: 075-493-0607

交通機関:

地下鉄 北大路駅下車、(JR京都駅より約13分)

市バス 北大路バスターミナル下車

1・北1・北2・北3・特北3・北4・北5・北6・
臨北6・特59・92・204・205・206号系統

京都バス 北大路駅前下車

懇親会：10月6日夕刻より京都大学総合人間学部構
内・吉田食堂1階にて開催

宿泊申込:

秋の京都は、宿泊施設が大変混雑することが予想されます。JTB日本交通公社京都支店を通じて、ホテルのシングル170室、ツイン110室を団体予約しております。料金は、個人で直接申し込む

よりは、1～2割程度安くなっているようです。

本会報添付の宿泊案内に従って宿泊申込書により8月31日(木)までに申し込んで下さい。その他、共済組合等の宿もありますが、数が限られており団体予約も出来ませんので、早めに各自で申し込みをして下さい。

○講演申込および予稿原稿送り先:

☆地球内部および月・固体惑星関係

〒113 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所 笹井洋一宛

☆太陽・惑星間空間・地球・惑星磁気圏および地球・惑星大気関係

〒980-77 仙台市青葉区荒巻字青葉

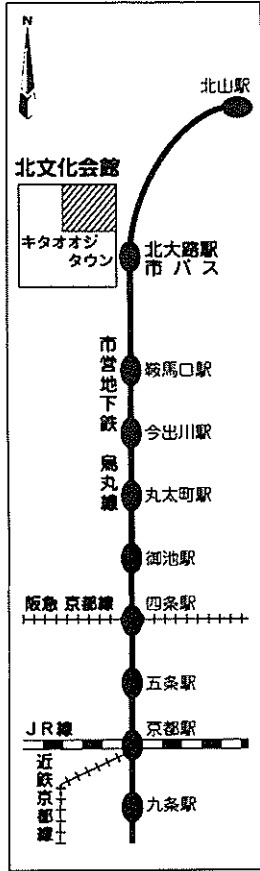
東北大学理学部宇宙地球物理学科 小野高幸宛

○講演申込は8月10日(木)までです。締め切り日以降に到着する申込、電話やFaxによる申込や遅延依頼は受け付けられません。

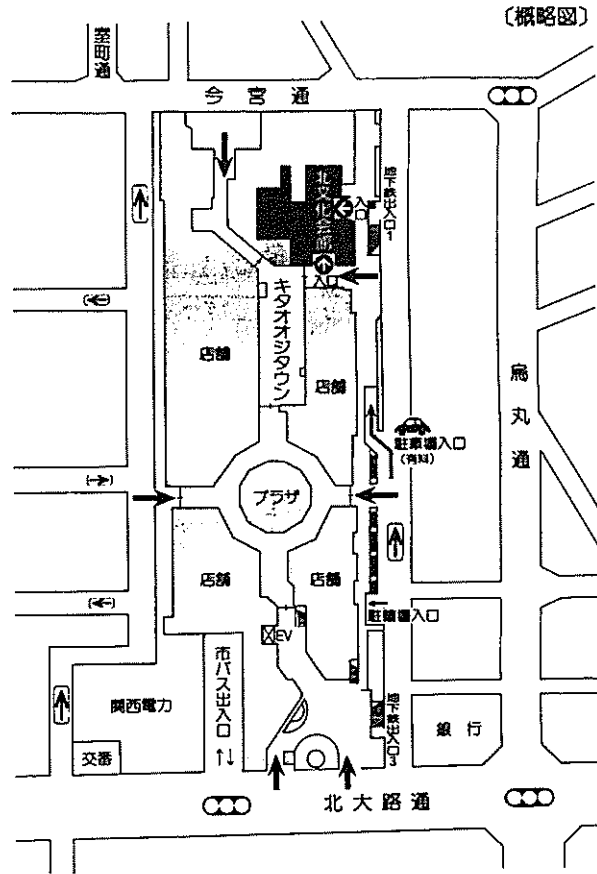
○総会議題の申込も8月10日(木)までに会長宛書面をお願いします。

○3頁の講演申込用紙をコピーしたものに必要事項を記入して、予稿原稿とともに送ってください。

交通案内図



会場案内図



●公開フォーラムの申込

なお講演申込用紙の氏名・所属はプログラム編集・印刷の都合上必ず日本語でお願いします。

(講演題目は英語でも結構です。)外国人の氏名はアルファベット表記でも差し支えありませんが所属はなるべく日本語で表示してください。

○予稿原稿のフォーマットに注意願います。特に左上の10mm×35mmのスペースは予稿集の印刷時に講演番号を付けるためのものですので、この部分にはタイトル等が入らないように注意願います。

公開フォーラムは10月4日午後1～2件が可能です。開催を希望される方は以下の書式に従って申し込みください。締め切りは講演申し込みと同じ8月10日(木)です。

日時・会場：現在のところ10月4日(水)午後、C会場(約60人収容可能)が予定されています。
案内・掲示：大会プログラムに掲載されるとともに大会実行委員側で統一フォーマットで掲示します。そのほか申し込みグループで独自に宣伝されて結構です。

公開フォーラム申込書

希望日時 :
 予定参加者数 : 名
 集会名 :
 代表者・所属 :
 連絡先 (TEL: FAX: e-mail:)

講演申し込み用紙 (コピーしてお使いください)

1. 題目 (予稿原稿と同じ言語で記入):

2. 氏名 (所属) (日本語で記入、連名の場合スピーカーには○を付ける):

連絡先氏名: _____

Tel: _____ Fax: _____ e-mail: _____

3. 発表分野 (○をして下さい、複数可)

A 地球内部: 1. 主磁場ダイナモ 2. 電気伝導度 3. 地殻活動電磁気学 4. 磁気異常
5. 岩石磁気・古地磁気 6. 磁場計測 7. その他 ()

B 固体惑星: 1. 太陽系 2. 月・隕石 3. 比較惑星 4. その他 ()

C 太陽・惑星間空間: 1. 太陽・太陽大気 2. 太陽磁気圏構造 3. 惑星間空間擾乱
4. 宇宙線 5. 太陽風・磁気圏相互作用 6. その他 ()

D 地球・惑星電磁圏: 1. 磁気圏構造 2. 電離圏構造 3. 磁気圏電離圏結合
4. オーロラダイナミクス 5. 磁気圏プラズマ波動 6. ULF波動
7. 惑星電磁圏 8. その他 ()

E 地球・惑星大気圏: 1. 大気圏力学 2. 大気圏化学 3. 大気圏放射 4. 惑星大気
5. その他 ()

4. 発表形式: 1. 口頭 2. ポスター 3. どちらでも可

(必ずしもご希望に添えないことがあります)

5. 映像装置: 1. ビデオ装置を使用する (VHS標準フォーマットのみ)

6. 発表順位: 以下の講演の (前/後) を希望します.

著者: _____

題目: _____

7. 予稿原稿は次ページのフォーマットに従って、A4用紙にできるだけワープロで清書して下さい。

8. 予稿原稿のコピーを必ず1枚同封してください。

9. その他ご希望、ご意見などがありましたら以下にお願いいたします。

予稿原稿フォーマット

A4用紙の外枠

この欄には講演番号が入ります。
文字を入れないようお願いします。

	10mm (番号)	題目 著者 (所属)	
	連名の場合は、スピーカーの左肩に丸印を付ける。 グループで申し込む場合も、スピーカーを明示する。		
	Title Name(Affiliation)		
	英文要旨 (本文が英語の場合不要)		
	本文 (日本語または英語)		
	コピーを同封してください		
			本文 (続き)
			注意

1. この枠は範囲を示すものです、印刷しないでください。
2. 原稿は約71%に縮小され、A5版になります。文字が小さくなりすぎないように注意してください。
3. ワープロの印字が薄すぎないように注意してください。手書きの方は、黒インクを使ってください。鉛筆やボールペンではきれいに印刷されません。
4. このページを144%に拡大コピーすると、ほぼ原寸の原稿用紙になりますので、枠として使えます。

第182回運営委員会報告

日時 平成7年6月9日(金) 13:30-18:15

場所 国立極地研究所 研究棟2階 第4会議室

各担当委員から諸報告がなされたのち、以下の議事について審議・承認がなされた。

1. 前回、前々回会議事録が一部修正後承認された。
2. 新入の正会員が承認された。
 - ・正会員； 石戸経士(工業技術院地質調査所)
 - ・正会員(学生)；
今村 剛(東京大学大学院理学系研究科)
堀井雅恵(金沢大学大学院自然科学研究科)
内山 高(大阪市立大学大学院理学研究科)
岡田達明(文部省宇宙科学研究所)
網田和宏(高知大学大学院理学研究科)
瀧澤博和(東北大学大学院理学研究科)
久光敏夫(茨城大学大学院理学研究科)
群谷順英(茨城大学大学院理学研究科)
3. 下記の研究集会・講演会について協賛、共催する事が承認された。
 - ・「Solar Terrestrial Prediction Workshop 1996」、郵政省通信総合研究所平磯宇宙環境センター主催。
 - ・「第39回宇宙科学連合講演会」、日本航空卵宇宙学会主催。
 - ・「第17回レーザーセンシングシンポジウム」、レーザー・レーダ研究会主催。
4. 第98回秋期総会並びに講演会の準備について以下のことが承認された。
 - ・前回と同様の講演、フォーラム、集会の申し込み様式、3.5日のプログラム日程とする。
 - ・講演、フォーラム、集会、総会議題等の申込みメ切り日は平成7年8月10日とする。
 - ・講演申し込み及び予稿原稿送り先は、地球内部及び月・固体惑星関係を笹井洋一委員、太陽・惑星間空間・地球・惑星磁気圏および地球・惑星大気関係を小野高幸委員とする。
5. 96年合同学会(平成8年3月26~29日)のプログラム委員として、地球内部及び月・固体惑星関係について兵頭政幸委員が、太陽・惑星間空間・地球・惑星磁気圏および地球・惑星大気関係については大村善治委員が選出された。
6. 地球惑星科学関連学会連絡会からの議題について以下のことが了承された。
 - ・合同大会の前日に行われる一般向けのシンポジウムについては次回の運営委員会で継続審議する。学会50周年記念事業のひとつの可能性として上げられる。
7. 恒常的な合同大会事務局の設置については、当学会として前向きに協力する。
7. 大林奨励賞の作業委員会の設置と運用方法について下記のことが承認された。
 - ・作業委員会のメンバーとして、固体関係(歌田久司、兵頭政幸)、大気関係(近藤豊、津田敏隆)、磁気圏-太陽風関係(寺沢敏夫、森岡昭)が候補者として選出され、会長から委嘱願いをする。
 - ・作業委員長として森岡昭委員が承認され、秋期学会前の9月中に第1回作業委員会を開く。
 - ・内規の修正、作業委員会の方針等を議論したのち、作業委員会メンバーや役割等を会報に載せ会員に周知させる。
8. 創立50周年記念事業WGの設置について議論した結果、WGとして園分会長、笹井洋一、田中高史、山本達人、横山由紀子委員が選出された。
9. 将来の合同学会誌について慎重に論議した結果、以下の方針が承認された。
 - ・新しい合同学会誌を目指した運営委員会主導のWGをつくる。
10. その他
 - ・テラ学術図書出版から申し出のあったロシア支援としてのJGG誌10部無償配布について、学会として配布することを承認した。配布先、期限等については、テラ学術図書出版、会長、総務、本蔵会員で検討後、実行することになった。
 - ・国際学術研究集会への出席補助金受領候補者の公募で、平成7年度は平成7年10月1日~平成8年3月31日の期間(A)の集会と平成8年4月1日~9月30日の期間(B)の集会を対象とする。A、Bの応募メ切り日を平成7年8月31日、平成8年2月28日とする。
 - ・主としてアジア諸国の関連分野の研究者で秋期、春期講演会への参加候補者の募集のメ切り日を平成7年9月4日とする。
11. 次回運営委員会：平成7年10月4日(水) 17時~21時、京都市北文化会館の会議室にて。

創立 50 周年記念事業について

1947年に発足した当学会は、2年後には50周年を迎えることになります。第18期運営委員会としては、50周年を記念する何らかの事業の準備をし、来期に引き継ぐことが重要と考え、ワーキンググループ(WG)を発足させることとしました。WGのメンバーは、笹井洋一、田中高史、山本達人、横山由紀子運営委員とし、広く会員からの意見を求め事業の企画等の検討を始めることになりました。(会長)

大林奨励賞推薦作業委員会について

6月9日の運営委員会において1994年10月20日制定の内規に基づき、大林奨励賞推薦作業委員会の委員を決定し、推薦作業を進めることになりました。委員の選考にあたっては、研究分野のバランスも考慮し、以下の会員に委嘱することとしました。

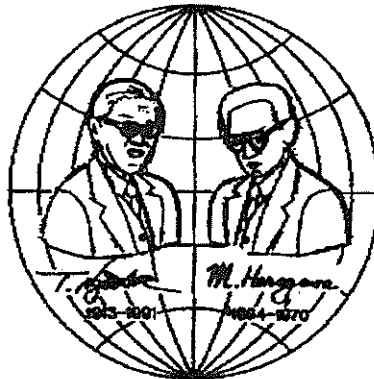
森岡 昭 (運営委員)、兵頭政幸 (運営委員)、
歌田久司、近藤 豊、津田 敏隆、寺沢敏夫、
(委員長森岡会員)

田中館賞は、秋の評議会で決定され、春の総会で表彰となっておりますので、大林奨励賞は、秋に表彰することを基本とすることを180回の運営委員会で決定しました。しかしながら、第一号については、この秋の総会までに選考を終えることは、日程的に困難であろうとの判断で、来年の春の総会に田中館賞とともに表彰することを予定しております。委員会独自の調査とともに会員各位からの候補者の推薦を受けることとなりますが、具体的な推薦方法などについては、委員会での検討をふまえてお知らせいたします。(会長)

長谷川・永田賞金メダルのデザインについて

第94回総会に於いて長谷川杯が長谷川・永田賞と改訂設立されることが議決され、運営委員会で金メダルと金杯が記念品として贈られることが決定されました。この金メダルのデザインについては会員から公募し、運営委員会で決定することになっておりましたが、検討した結果右のデザインに決まりましたのでご紹介いたします。

(総務)



山田科学振興財団研究援助候補の

推薦について

山田科学振興財団の1995年度研究援助の推薦に関して、4件の応募がありました。学会からの推薦は2件とされており、評議会の意見を求め次の2件の推薦の手続きを取りました。(会長)

代表研究者 森岡昭 (東北大学理学部超高層物理学
研究施設教授)

研究主題 「巨大惑星・木星からのシンクロトロン放射電波の観測」

代表研究者 深尾昌一郎 (京都大学超高層電波研究
センター教授)

研究主題 「レーダー/ロケットによる中緯度電離
圏不規則構造の日米共同研究」

合同大会共通セッション・シンポジウム 提案の受け付け

地球惑星科学関連学会1996年合同大会プログラム委員会では下記のように共通セッション・シンポジウムの提案を募集しています。

記

開催場所：大阪大学豊中キャンパス (豊中市)

開催期間：1996年3月26日-29日

○以下の情報を記して申し込んで下さい。

(a) コンビナー氏名、連絡先

(b) call for papersの原稿

○申し込み締切：9月11日17時必着

○申し込み先：土山 明 (プログラム委員長)

〒560 豊中市待兼山町1-16

大阪大学理学部宇宙地球科学教室

電話：06-850-5800 (dial-in) FAX: 06-850-5817

Email: f61030a@center.osaka-u.ac.jp

本学会創立当初の思い出

力武常次

1945年8月の敗戦後、3年間の海軍勤務から焼野原の東京に復員してきた私は、地震研究所の助手の身分が休職中として残っていることを知り、東大に復職させていただいた。同所では、永田先生が理学部に転出され、誰れも電磁気学の立場から地震・火山現象を追及しようとしていなかった。私は卒業論文として、永田先生の指導下で「成田層の自然残留磁気」などを測定し、海軍でも横須賀海軍工廠航海実験部で、船体磁気や磁気による潜水艦探知兵器の開発をやっていたので、お前は地球電磁気学をやれということになった。

研究所のガラクタをかき集めて、地磁気変化計をつくって、神奈川県油壺で観測したり、小型伏角計をつくって、伊豆大島三原山の噴火にともなう地磁気変化を計測するなどしたが、若くて体力もあった当時がなつかしく思われる。

太田権次郎先生が学会会報138号にお書きになっているように、ちょうどそのころ地球電磁気学会を設立しようという先輩諸氏の計画が進められていた。かけ出しの助手であった私は、そんな大それた企てに加わることなく、ひたすら研究に明け暮れる日常であった。

当時は研究所の専門分野はあまり制限されることなく、極端に言えば何をやってもよいような自由な雰囲気であった。私は専門の地球電磁気ばかりでなく、地震研究所の荻原尊禮先生のグループに参加して、地震観測や地殻変動観測書の建設のお手伝いをしたりした。また、大田先生のお話しに出てくる電離層委員会にも参加して、極光帯の電気伝導度が高い場合のダイナモ理論をつくり、微分方程式を級数を用いて解くなどをやった。あとからみると、これはcotangent関数を苦労して扱っていたに過ぎないという笑い話となった。

そのころの私のメインテーマは、地磁気の時間変化を解析して、水平及び垂直成分を比較することによって、地球内部の電気伝導度の分布を求めることであった。磁気嵐の急始から始まって湾型変化や日変化を解析し、さらには磁気嵐の主相までを処理し、地下の深さ数百kmまでの電気伝導度分布を決定しようというわけであった。現在と違って、スマートなインバージョンというわけにはいかないが、ふかさ400kmあたりで伝導度の急増があるらしいという結果に到達した。

1949年には学会に田中館賞が設けられ、「地球内部の電氣的性質の研究」ということで、私は第



1号田中館賞を授与されるという光栄にあずかった。第2号は同時に米沢利之君が受賞した。当時、東京都杉並区高圓寺にあった気象研究所で学会があり、副賞2000円をいただいた。帰りにみんなでラーメンを食べ、記念にボールペンか何かを買ったら、全部なくなってしまった。まことに貧しい時代だったのである。

その後、地球内部の電氣的性質の研究の重点は、日本中部の地磁気変化異常の研究に移り、いわゆるCA (conductivity anomaly、電気伝導度異常) 研究の走りとなった。この結果を持って1953年ヨーロッパに出かけた私は、ゲチンゲンのBartels先生に同様のCAがドイツにあることを知らされた。その後CA研究は発展して、CAのない国はほとんどないほどになった。学会内でもCAグループが存在し、春夏の年会以外にも、時間の取れる研究会を毎年開催している。

田中館先生は、私などにとっては雲の上の存在であった。学生時代の終わりに、「成田層の自然残留磁気」の話を、地震研究所の談話会で発表したことがあったが、最前列に田中館、長岡(半太郎)の両先生が座っておられ、まことにビクビクものであった。

太田先生のお話にもあるように、田中館先生のご葬儀は1952年5月21日東大安田講堂で行われたが、私は世田谷区経堂のお宅からご遺骨を地震研究所の外車(重力計用に購入した当時の高級車)で

講堂までお届けしたことを覚えている。

1960年代にはいと、地震予知計画が始まり、当時若手の教授だった私はその幹事役を努めることになった。その後地震予知論に深入りすることになったため、世の中ではあいつは地震の先生だと思ようになったが、もともとは電磁気屋なのである。

このごろは学会の年会に出席できないことが多いけれども、CA研究会だけにはほとんど毎年出席して、そのたびに故郷に帰ったような気分を味わっている。学問の急速な発展もあって、ついて行くのがやっとという感があるが、今でもときたまJGGに磁気シールドの論文などを投稿させていただいている。

田中館賞受賞者より

丸山 隆会員（通信総合研究）

この度、田中館賞を戴きましたことは、望外の喜びであります。授賞の対象となった電離圏不規則構造の研究がこれまで継続できましたのも、研究所内外の諸先輩のご指導によるものと感謝致しております。

電離圏不規則構造の原因であるプラズマの不安定性は、私がこの分野の研究に入った当初から興味のある問題でした。電波研究所（現在の通信総合研究所）に入所当時、我国初の実用衛星と銘打った「ISS」が打ち上げを控えており、そのデータ処理のための要員として衛星データ解析研究室に配属されたのが、電離圏研究に関与するきっかけでした。固体物理学を専攻した私にとっては、耳から入ってくる専門用語の一つ一つが全て新しいものでありました。程なくして、衛星が打ち上げられると（実際には初めの一つは失敗）、データが洪水のように溢れてきました。衛星の設計、開発から管制、データ取得まで数え切れないほどの人々が関与し、その汗の結晶と言うべき物でした。しかし、世界的にはAlouette-1,-2,ISIS-1,-2という4つの傑作トップサイドサウンダー衛星がすでに活躍しており、ISSのトップサイドサウンダーで何の新しい研究ができるのか、素人目にも不安でした。ISSはイオノグラムの分解能を大幅に犠牲にする事と引き替えに、当時としては精一杯の、一日あたり地球4周回のデータを得られる設計になっており、このことがAlouette,ISISに対抗できる利点でありました。世界の研究動向も全く分からないままに、ともかくイオノグラムに現れるスプレッドFの世界分布を調べ始めたのが、その後の研究方向を大きく決定することになりました。

時を同じくして、Jicamarcaレーダの解析から提唱されたプラズマバブルのモデルが契機となり、米国を中心に赤道スプレッドFの研究が飛躍的に発展しました。ところで、IGY以来、赤道スプレッドFに

は経度と季節の複雑に絡んだ発生特性が知られていましたが、その特性の全体像と出現機構は依然未解明のままでした。ここで、ISSが大きな貢献をすることになります。今回の授賞対象



となった中心的論文がそれで、磁気子午面で赤道を横断する熱圏風による電離圏プラズマの再分布がRayleigh-Taylor不安定を抑制するというものです。この論文ではデータ解析と機構のアイデアを述べたに留まりましたが、二つ目の論文は、電離圏モデリングを行い非局所的な不安定性の線形成長率を求めたものでした。見様見真似で始めたモデリングは超高層大気の研究経験の無かった私にとって格好の演習問題であり、その後も電離圏研究に就く契機となりました。稚内観測所時代の不安定性理論の中緯度電離圏への応用とETS-2衛星のビーコン電波解析へと繋がって、一連の授賞対象論文となったわけです。

多分に外からの要因で就いた研究分野でしたが、もとより、電波研究所に入った時点で、何れの分野であっても、そこでの興味が湧いてくるものと考えていたわけです。それにしても、昨今の自分を省みますと、極狭いテーマにしがみついている事に気がきます。今回の田中館賞授賞を励みに超高層大気をもっと広く勉強して行きたいと思えます。

お知らせ

●共催講演会・協賛シンポジウムのお知らせ

地球電磁気・地球惑星圏学会では以下の講演会・シンポジウムを共催・協賛いたします。

○第39回宇宙科学技術学術連合講演会

講演内容：宇宙科学および宇宙技術に関する講演を募集します。すでに発表されたものでもさしつかえありませんが、最近の研究に関するものを期待します。

共催：日本航空宇宙学会（幹事学会）、地球電磁気・地球惑星圏学会、他

開催日：1995年10月31日（火）～11月2日（木）

会場：財団法人大阪府教育会館「高津ガーデン」

近鉄上本町駅 北へ徒歩3分

参加登録料：共催学会正会員2000円、学生会員1000円、賛助会員3000円、非会員4000円

申込締切：1994年7月14日（金）消印有効

原稿締切：1994年9月18日（月）厳守

申込先：〒105東京都港区新橋1-18-2

日本航空宇宙学会

「第39回宇宙科学技術連合講演会」係

Tel 03-3501-0463 Fax 03-3501-0464

○第17回レーザーセンシング・シンポジウム

内容：光源を含むレーザ&光によるリモートセンシング全般に関する学術講演

主催：レーザーダ研究会シンポジウム実行委員会（第17回実行委員長：名古屋大学岩坂泰信）、

宇宙開発事業団（予定）、（財）光産業振興協会
協賛：地球電磁気・地球惑星圏学会、他

開催日：1995年10月12日（木）～13日（金）

場所：愛知県蒲郡市三谷温泉「ホテル明山荘」

参加費：一般7,000円 学生2,000円（シンポジウム、講演予稿集を含む）

発表申込締め切り：1995年8月11日（金）

原稿締め切り：1995年9月8日（金）

参加申込締め切り：1995年9月8日（金）

問い合わせならびに参加・発表申込み先：

〒464-01 名古屋市千種区不老町
名古屋大学太陽地球研究所東山分室
岩坂泰信

Tel.052-789-4300 Fax.052-789-4301

○Solar Terrestrial Predictions Workshop 1996

日時：平成8年1月23日～27日

場所：日立市民センター

主催：郵政省通信総合研究所 平磯宇宙環境センター

協賛：地球電磁気・地球惑星圏学会他

連絡先：野崎憲明

Fax:0292-65-9717 e-mail:nozaki@crl.go.jp

●本年度の国際学術交流事業について

本年度も国際学術交流事業の一環として以下の補助金受領者を公募いたします。

○国際学術研究集会への出席補助金受領候補者

外国で開催される国際的な学術交流集会（米国地球物理学連合春秋期大会等も含む）へ参加するための経費（渡航旅費及び滞在費）の一部補助
・対象の集会：（A）平成7年10月1日～平成8年3月31日および（B）平成8年4月1日～9月30日の期間に外国で開かれる国際的な学術研究集会。

・応募資格：35才以下（応募期日時）の地球電磁気・地球惑星圏学会正会員で国際的な学術研究集会に出席し論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定のもの。

・補助金額：年総額60万円以内

・申し込み締め切り：（A）平成7年8月31日
（B）平成8年2月28日

○本学会講演会への海外参加候補者

主としてアジア諸国の関連分野研究者が本学会春季並びに秋季講演会に参加するための来日旅費及び滞在費の補助

・対象の集会：平成7年度地球電磁気・地球惑星圏学会春季並びに秋季講演会

・応募資格：主としてアジアの関連分野の研究者で上記の講演会で論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定のもの。当該研究者の推薦は本学会正会員が行う。

・補助金額：年総額40万円以内

・申し込み締め切り：平成7年9月4日

いずれも若干名の募集です。応募には、所定の申請書類（学会事務センター備付）を本学会運営委員会に提出して下さい。補助金受領者の選考・義務等については学会基金による国際学術交流事業運用規定（会報132号参照）をご参照下さい。

●田中館賞の推薦について

今年度の田中館賞の推薦締め切りは、平成7年9月5日（火）です。候補者の推薦には、推薦状、業績（論文）リストと別刷り、略歴書、各11部を期日までに会長宛てお送りください。

研究助成金案内 (下記助成金のいずれについても詳しくは総務まで。)

●国際通信研究奨励金(平成7年度)

メ切1995年7月13日(水)必着

国際電気通信に係る工学的または社会科学的な基礎研究および応用的調査研究を行なう個人又は団体対象。総額2,000万円程度。

連絡先:財団法人

KDDエンジニアリング・アンドコンサルティング

〒153 東京都目黒区中目黒2丁目1-23

Tel.03-3794-8203

●日本証券奨学財団(平成7年度)

メ切1995年8月18日

大学において学術文化の研究調査に従事している55才以下の個人又はグループが対象。新素材及び環境改善に関する萌芽的研究を重視する。総額6000万円。一件につき100万円程度、ただし、特に必要と認められる場合は300万円の範囲で助成を行なう。

連絡先

財団法人日本証券奨学財団

〒103 東京都中央区日本橋茅場町1丁目5-8

東京証券会館6階

Tel.03-3664-7113

●日産財団(平成7年度)

メ切1995年8月31日

総合研究(学際的共同研究)一般研究(独創的共同研究)、奨励研究(萌芽的個人研究)、海外共同研究(学際的調査研究)の種別で助成。総合研究のテーマは、1「人間と自然環境との共存に関する研究」2「人工環境と人間生活とのかかわりに関する研究」の2点で2~3年間で1000万円までを補助。一般研究、奨励研究のテーマのうち当学会にかかわりの深そうなものに「地球表層部における自然メカニズムの理解を目的とする研究」が挙げられている。一般研究は概ね45歳以下の研究者に2~3年間で1000万円までを、また、奨励研究は35歳以下の研究者に1年間で200万円までを補助。海外共同研究は1「自然環境の保全と人間生活との調和に関する研究」2「都市環境の解析と改善に関する研究」というテーマで2年間で500万円までを補助する。一般研究助成と奨励研究助成は当学会にも推薦依頼が来ておりますので、応募されるかたは早めに総務までご相談ください。

連絡先

財団法人日産科学振興財団研究助成係

〒104 東京都中央区銀座6-17-2

日産ビルネット-2

Tel.03-3543-5597 Fax.3543-5598

人事公募

●東京工業大学理学部地球惑星科学科

職名:助教授

専門分野:地球惑星内部構造講座

広い意味での惑星科学の分野にあって、新しい研究を切り開き、また研究グループのリーダーとして力強い指導力を発揮できる方を希望します。着任後は本学科の教官と有機的なつながりを持って、地球惑星科学の研究を推進できる方を望みます。

着任時期:平成8年3月までの可能な限り早い時期

応募書類:

・履歴書

・業績目録(査読雑誌掲載「論文」とそれ以外の

「総説等」に分けてください)

・主要論文(5篇以内)の別刷(あるいはそのコピー)

・今後の研究計画、抱負など

・応募者に関する所見をうかがうことのできる方1ないし2名の氏名及び連絡先

応募書類の締切:平成7年7月31日(月)必着

応募書類送付先ならびに問い合わせ先:

〒152 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学理学部地球惑星科学科

学科長 高橋栄一

Tel 03-5734-2338 Fax 03-3727-4662

応募書類の封筒には「助教授応募」などと朱書して下さい。

SGEPSS Calendar

1995年

7月2日～14日 International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG) XXI General Assembly
at Boulder, Colorado, USA.

7月19日～21日 平成7年度「北極圏環境研究」国際シンポジウム
於 国立極地研究所

7月22日～24日 岩石磁気・古地磁気研究会 於 妙高高原池の平 ロッジ関根

8月10日 地球電磁気・地球惑星圏学会第98回講演会 申し込みメ切

9月20日～22日 International Workshop
"Magnetic, electric & EM methods in seismology & volcanology"
at Positano, Italy.

10月2日～6日 EISCAT Symposium at Corsica, France

10月4日～7日 地球電磁気・地球惑星圏学会第98回総会並びに講演会
於 京都市北文化会館

10月12日～13日 第17回レーザーセンシング・シンポジウム
於 愛知県蒲郡市三谷温泉「ホテル明山荘」

10月31日～11月2日 第39回宇宙科学技術学術連合講演会
於 高津ガーデン (大阪)

11月 磁気圏・電離圏シンポジウム 於 宇宙科学研究所

12月19日～20日 CA研究会 於 地震研究所

1996年

1月23日～27日 Solar-Terrestrial Predictions Workshop at Hitachi Civic Center

2月12日～16日 AGU Chapman Conference on Magnetic Storms
at Jet Propulsion Laboratory,

3月26日～29日 地球惑星科学関連学会合同大会 於 大阪大学豊中中学舎

4月15日～19日 COSPAR Colloquim for Magnetospheric Research using Advanced Technique
at Beijing, China

5月13日～17日 International Conference on Substorms-3 at Versailles, France

7月23日～27日 WPGM (Western Pacific Geophysics Meeting)
and SEDI (Study of the Earth's Deep Interior)
at Brisbane Convention and Exhibition Centre
Brisbane, Australia

SGEPSSカレンダーは会員からのお知らせで成り立っております。国内外の学会、研究会、委員会、予稿締切等、皆様に広めるべきことがございましたら会報担当までお知らせください。

地球電磁気・地球惑星圏学会

会長 國分 征 総務 湯元清文

〒442 豊川市穂ノ原3-13 名古屋大学太陽地球環境研究所 05338-9-5182 Fax 4-8806

庶務 渋谷秀敏 (会報担当)・森岡 昭

〒593 堺市学園町1-1 大阪府立大学総合科学部地学教室

0722-52-1161 ex 3735 Fax 55-2981 e-mail shibuya@cias.osakafu-u.ac.jp

運営委員会 〒113 東京都文京区本駒込5丁目16番9号学会センターC21 (財)日本学会事務センター 気付

03-5814-5810 会員業務 (入退会、住所変更等、会費、会誌)

03-5814-5801 学会業務 (庶務、窓口、渉外)

03-5814-5820 ファクシミリ

入会申し込み、国際学術交流事業への応募は運営委員会宛、田中館賞推薦は会長宛、研究助成金案内は総務宛、会報への投稿は担当庶務宛ご連絡ください。会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿をお待ちしています。

第98回地球電磁気・地球惑星圏学会総会並びに講演会プログラム (案)

各セッションの講演申込数によって日程に変更があるかもしれませんのでご注意ください。

1995年	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
10/4 (水)	A	磁気圏-1										
	B	太陽風磁気圏相互作用										
	C	公開フォーラム										
10/5 (木)	A	電離圏磁気圏結合・オーロラダイナミクス										
	B	大気圏力学										
	C	岩石磁気・古地磁気・海洋磁気異常										
10/6 (金)		ULF波動										
		太陽圏										
10/7 (土)	A	磁気圏-2										
	B	固体惑星 主磁場ダイナモ										
	C	電離圏										
10/8 (日)	A	特別講演会 (A会場)										
	B	総会 (A会場)										
	C	懇親会 (京都大学 吉田食堂)										
10/9 (月)	A	磁気圏-3										
	B	惑星大気圏・惑星電磁圏										
	C	磁場計測・電気伝導度・地殻活動電磁気学										
10/10 (火)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/11 (水)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/12 (木)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/13 (金)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/14 (土)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/15 (日)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/16 (月)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/17 (火)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/18 (水)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/19 (木)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/20 (金)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/21 (土)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/22 (日)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/23 (月)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/24 (火)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/25 (水)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/26 (木)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/27 (金)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/28 (土)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/29 (日)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/30 (月)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										
10/31 (火)	A	電離圏										
	B	大気圏										
	C	電離圏										